

報告

バリアフリー2011

川村義肢株式会社

原田 弘幸・蓮見 千穂・新垣 美沙

1. はじめに

今回で17回目となるバリアフリー2011がインテックス大阪にて開催されました。会期は2011年4月14日(木)～16日(土)の3日間、開催テーマを「高齢者・障がい者の生活を快適にする福祉機器・製品を含めた総合的な福祉情報を発信します」とし、様々な福祉機器の展示及び、講演・セミナー・ワークショップの開講がされました。私たちは会期中最終日の16日に参加しました。

2. 会場の様子

会期中の来場者数は90,189人でしたが、昨年の91,197人に比べると減少しました。今年は東北地方太平洋沖地震の影響で、出展を縮小・自粛する企業もあった為、空いたブースが休憩スペースや車いす試乗コーナー等になっており、少し寂しく感じましたが、エンドユーザーの方々の参加も多く見受けられ、どの会場も人で賑わい活気が感じられました。

出展している企業のブースを見てみると、福祉用具の中でも義肢装具関連の展示は思ったよりも少なく、自助具やおむつ等の展示が多く感じられ、車いすやマットレスも沢山見ることができました。おむつは開いた状態で沢山展示してあり、比較しやすく分かりやすい展示でした。ユーザーが手にとって見て触れる展示が多く、利用者目線に立ち、工夫された展示だと思いました。

3. 展示

災害時の危機管理コーナーという展示に注目しました。

今年私たちは東京で東北地方太平洋沖地震の影響で、公共機関が止まり帰宅困難者となり、ライフラインの供給が不安定になったことなどを経験し、このブースがどういったことを展示しているのか興味を持った為です。

その中でも特に、パネルで展示されていた救助方法等の検証に注目しました(図1～3)。パネルでは、様々な道具、方法等を用い、要援護者の搬送がされていましたが、この場合、必要な道具・知識・人・設備がある程度整っているから検証が行えたのではと考えました。

また、検証にある自転車用スロープの車いすでの使用も、幅が広いスロープは珍しいとされ、且つそれでも幅が狭く車いすに合わない場合が多く、有効であるとは言えないことが分かりました。



図1 ブース内のパネル展示物

パネルでの検証を見て私たちが思ったのは、必要な道具・知識・人・施設の設備があっても、救助するには工夫や多くの人力が必要であるのに対して、これが整ってなければ助けることが困難になる可能性が高く、時には助けることすら出来ないこともあると

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1

思いました。

実際災害に遭い、状況によっては健常者の私たちでも避難が難しいこともあります。もし道路が寸断され、周りに人がいなかったら、要援護者はどのように避難したらよいのでしょうか。

日常生活でのバリアフリー化は近年整ってきているが、災害時の避難に対する対策は、整っていないのが現状です。

今回の東北地方太平洋沖地震を経験し、この展示から私たちはこの問題に気付くことが出来たが、まだまだ一般的には問題意識が薄いと思われます。

今後、避難に関する経路・方法などのガイドライン、バリアフリーを考慮した福祉避難所の指定や、災害時の情報共有も必要であり、連携がスムーズに取れるよう推し進めて欲しいと願います。

4. おわりに

私たちは、東京にある啓成会高等職業技術専門学校で、1年間義肢装具の勉強をしました。今後は製造の技術者として義肢装具を作っていきますが、バリアフリー2011に参加し、様々な福祉用具を知ること、今どんな福祉用具が使われているのか、実際に触ってみて気付くことなど、様々なニーズを知ることができました。

福祉用具は複合的に使われたり、生活の場面ごとに色々なものを使用することも多く、どんな風に生活を送っているのか知る上でも、福祉用具の知識が必要になってくると思います。

今回はあえて、災害時の危機管理について取り上げることにしましたが、バリアフリー化を目指すには、こういった考え方が必要だと思ったからです。

私たちは、義肢装具、車いすなど多くの自立支援用具の製造、適合サービスなどを通じて、一人でも多くのお客様が外に出て生活や人生を楽しんでいただく為の支援をさせていただいております。

しかし、お客様が外に出た時の安全が確保されていないことも実感しました。

今後は福祉関連の業界全体で、地域や行政に積極的に働きかけ、障がい者(当事者参加型)のお話を聴き、障がいを正しく理解することによって、真のバリアフリー化が実現出来ると考え、行動することが望ましいと考えました。

【参考 URL】

<http://www.itp.gr.jp/bf/>



図2 ブース内のパネル展示物



図3 ブース内のパネル展示物